

進路通信、第7号です。2024年、3学期、どちらにとっても1号目ですね。始業式でのお話の中でもありましたが、きちんと「目標を立てて」「全力で」何かに取り組んでいますか？必ずしも勉強に、部活に頑張りなさい、とは言いません。皆さんがやりたいこと、これと決めたことであれば（程度はあれど）、私達は応援したいと思っています。3学期は短いです。計画を立て、有意義に過ごしてください！（余談ですが、私（中田）の高校同期にはゲームに打ち込んだ結果、そのゲームの全国大会のMCなどを務め、ついにはSEGAに就職した、なんて人もいます。）

とはいえ、進路通信のメインテーマは「高校生活の最優先事項である学業で良い未来を掴み取る、そのための情報提供やアドバイスをお伝えする」ことです。よって、今回は13日に行われた進研模試を題材に、『自己採点って何のためにするの?』というテーマでお話をします。

『絶対に自己採点をするべき3つの理由』

最近ネットニュースで流行っている記事の見出しっぽくしてみました。少なくとも3つ、というだけで、もっといろいろな意義があることは予め知っておいてくださいね！

疑問や間違いをきちんと解消し、知識をアップデートすることができる

以前の記事で「人は忘れる生き物」という話をしたことを覚えていますか？その時は学習習慣の文脈でお話をしましたが、その話はこんなところにもつながってきます。つまり、「問題を解くときに抱いた疑問や、勘違いをして覚えていたことも、時間がたつとどんどん忘れてしまう」というわけです。定期考査の返却で数日、模試の返却は1ヶ月先になります。それだけの期間があるとどの位忘れてるか…おわかりですよ？だからこそ、「鉄は熱いうちに打て」の格言通り、「模試はその日のうちに自己採点をしろ」ということが言えるわけですね！

自身の「自己評価」の精度を見極める／高めることができる

次のポイントは大学進学を考えている人たち以外にも、特に大切なお話になります。特に今回のような記述模試の自己採点をする際に、必ずと言っていいほど言われることがあります。「記述問題の〇×なんか自分で判断できないよ！」これ、一度は思ったことがあるのではないのでしょうか。もう一つ、「どうせ後で正しい結果が返ってくるんだから、今不正確な自己採点をする必要なんかなくない？」こちらも多くの人が思った経験があるのでは。

どちらも実は「甘い」と言わざるを得ません。自己採点の〇×のつけ方には人間が出ます。自分に甘い人は「実際の点数より自己採点の点数の方が高い」ことが多く、悲観的で物事を諦めがちな人は「実際の点数より自己採点の点数が低い」ことが多々あります。どちらも決して褒められたことではありませんよね？

つまり、自己採点というプロセスは実は「自分の自己評価」と「客観的な評価」をすり合わせるプロセスにもなっているのです。妙な自信過剰や過小評価でやらかすのを避けるためにも、是非「自己採点の点数＝実際の点数」になることを目指して、練習してみてください！

将来の入試（特に共通テスト利用型）における出願戦略が固められる

最後に力説したいのは、「出願戦略」のお話です。特に「共通テスト利用型入試」という制度を利用する場合、自己採点の正確性がとても大切になってきます。なぜなら、1月に行われる共通テストの結果は4月以降にならないと帰ってこないのですが、1月中に出願する「共通テスト利用型入試」では、そのテストの結果で合否が決まるからです。つまり、「共通テスト利用型入試」を出願する時点で、自分が受かるか落ちるかを判断する材料は「共通テストを自己採点した結果」しかないわけです。

さらに、この自己採点結果は各種受験予備校が提供する合否判定サービスに利用できます。最後の模試は11月なので、そこから2か月後、受験直前の最新データを元に受験戦略の組み直しができるわけです。

これらは全て「自己採点が（ある程度）正確に出せる」という前提に基づいた話です。ということは……、もう言わずともわかりますよね？

長くなりましたが、遠い先を見据えて今から一步步前進していく。その気持ちを忘れずにいてください！

この後はそんな「遠い先」を経験した先生達の経験談、第4弾です！楽しく読んでくださいね！

～先生たちが愛したキャンパス～ ③

向野 千世（6組担任・教務部）

出身大学：東京学芸大学 教育学部 中等教育教員養成課程社会専攻（東京都小金井市）

私がこの大学を志望したのは、社会科の教員になりたいと思っていた私に、高2の時の担任が勧めてくださったことがきっかけでした。とはいえ、部活に明け暮れていた私には、センター試験（現在の共通テスト）5教科7科目はハードルが高く、不合格。同期がキャンパスライフを楽しむ中、勉強漬けの浪人生活を1年送りました。その甲斐あって1年後は合格し、勉強の楽しさを実感することもできたので、浪人の1年間が無駄とは決して思いません。妥協するくらいなら浪人した方がいいとは思いますが、それでも現役で第一志望に合格するのがベストですよ！そのために、今のうちからコツコツ勉強することを強くおすすめします。

東京学芸大学は、東京都の23区から少し離れた小金井市にあり、自然豊かなキャンパスが広がっているので、落ち着いたキャンパスライフを送りたい人にはぴったりです。教員養成大学といわれ、教員志望の学生が多く、教育実習は附属校と母校の2回できるのも特徴です。1学科の人数が少ないのは国立大ならではのだと思います。ちなみに私の学科は28人で、今でも定期的に集まります。

私が大学3年生になる頃、コロナウイルスが流行り始め、大学の授業やゼミはほとんどオンライン、構内に自由に入ること許されないような状況が約1年続きました。だからこそ、友人や教授と対面で話すことができるようになった時には本当に嬉しくて、大学に行くのが楽しみで仕方なかったのを覚えています。皆さんも中学校で似たような経験をしたでしょうか？ この経験をしたからこそ、皆さんには本当に充実したキャンパスライフを送ってほしいと切に願っています。そのためにはまず、、繰り返しません。皆さんの頑張りを応援しています！